

城端地域 会議録

件名	城端地域提言実現検討組織による第15回会議		
日時	令和2年7月17日(金) 19時~21時	場所	城端庁舎2階 202会議室
出席者	検討組織メンバー:10名、まちづくり推進係:2名		
内容	・空いた庁舎を活用した実証実験の実施に向けた打合せ		
概要	<p>◆空いた庁舎を活用した実証実験の提案について (○…提案者発言、●…メンバー発言、→…事務局発言)</p> <p>→実証実験に向けた取組提案について、皆さんから提出いただいている。まずは、その内容について発表していただきたいが、良いか?</p> <p>●(全員)異議なし。</p> <p>(川田氏) <u>ブックマンション</u> この名称を付けてはみたものの、他所に似ているようで少し違う同名の取組が既にあるそうなので、違う名称にした方がいいかなと思っている。私の提案は、読み終えた本を共有・シェアし、「(仮称) 誰誰の本棚」というコーナーを設け、そこに置かれた本を手にとって読んでもらう、というもの。活動場所に常に人が張り付くとか、金銭の授受とかは困難であると考えているので、基本的には無人での取組としたい。この社会情勢が落ち着いたら、マルシェなど販売イベントで、一部の本の販売も出来れば、と思っている。ちなみに、私は古物商許可を持っているので、ゆくゆくはそういう場も作りたい。それらの本で読み聞かせも可能。あの人はどんな本を読んでいるのだろうか? 私の持っているこの本をみんなにも読んでほしいな、と思っている人、そんな人がたくさんいらっしゃることを信じて、この取組をやってみたい。</p> <p>●他所の取組とはどこが違うのか?</p> <p>○1つは、その場で本を販売している点。もう1つは、1箱、例えば1,000円で、みかん箱程度の大きさの箱を販売し、その箱に自分の本を入れてきて、設置するもので、本を設置している一人ひとりが本のオーナーであるという点。仮に、本が売れなくて損することになっても、それはそのオーナーの責任、というスタンス。私の提案の場合は、場所代をもらわずに、「本をお預かりする」というもの。眠っている本をいかにして表に出すか。眠っていて、もったいない、という本をお持ちの方は、ぜひ参加していただきたい。</p> <p>●市内図書館の廃棄予定の本を集めて、有効活用出来ればよいのではないか。図書館で実施している古本市との共同開催の可能性もあるのでは?</p> <p>→図書館の取組の中で、こちらで代行出来るようなものに取組ませてもらえるようになれば良いと思う。また、今回、検討している複合交流施設には図書館機能を入れると提言で謳っているのだから、機能として中に入る図書館との違いを出しながら、区別出来るような取組になると良いと思う。</p> <p>(川田氏) <u>ボランティアのたまりば</u> ベルマークや使用済切手などの、集めればお金の代わりになる資源を収集・整理して、取扱先に提出する、という誰でも手軽に参加できるボランティア活動である。作業の流れとしては、例えばベルマークであれば、ベルマークの周りを切り取り、それを専用台紙に貼付し、小学校へ届ける、というイメージ。ベルマークの小学校への提供については、小学校の先生、小学校PTA共に先日承諾をいただいていた。特にベルマークは、小学生のいない家庭では収集されず、ゴミと同様に処分されているので、非常にもったいない。</p> <p>(長谷川氏) <u>町ピアノの設置</u> 現在の庁舎3階にあるグランドピアノが使われずに置いたままになっているのがもったいないと感じて提案したもの。ストリートピアノ風な使い方、短期間でも使用出来たらよいと思う。フラットと寄って、子どもの頃に習ったような懐かしい曲を弾く人がいたり、片方で、その演奏に耳を傾ける人がいたり、拍手が起こったり。このように、人と人をつなぐ役割はあると思う。50代~60代の中には過去にピアノを習っていた人が多くいたはずなので、そのような方の利用は見込めるのではないだろうか。なお、管理費用の面からも、乱暴な扱いは避けたいと思っている。また、実証実験として提案してはみたものの、ピアノの音が、建物内の他の利用者の妨げになってはならないだろうから、その点も十分考慮しての実験となるだろう。</p> <p>●人が多く集まる場所だと提案のような効果はあるだろうが、そもそもピアノを聞く人がいるのか? 人寄せは期待出来るのか?</p> <p>●例えば、2階で演奏して、それを、ネット配信を活用するなどして、1階に流せると良いのかも。</p>		

- ネット配信するくらいなら、ここで取組む必要はないのでは？
この城端の地で、この取組に、人と人がつながるような仕掛けでもあるのであればやれないことはないかもしれないが、単にピアノが弾きたい人を集めるだけでは、せっかくのピアノが置いたままになって使われないのではないかとイメージした。
 - 検討している複合交流施設には、防音機能のある会議室は元々欲しいと思っていた。この提案のように、今あるピアノを有効活用することは大事。
 - ピアノの調律代は高額と聞くと、いくらぐらいなのだろうか？
 - 他所の文化ホールでは、所有している高価なピアノで演奏してもらおうという企画があり、料金を徴収し、予約制で2時間程度利用してもらっているそう。結構利用があると聞いた。
- 料金徴収の仕組みがあれば、そこで調律代を賄うことは可能かもしれない。そのようなことも併せて検討していく必要はあるだろう。

(山崎氏) 週末カフェ+集える場 将来的に、図書館利用者、市民センターへの来庁者、社会福祉協議会や商工会へのご用の方、サークル活動での来場者、観光客など、様々な方の利用を視野に入れて、そのような方々がフラッと立ち寄れるような施設にするためには、飲み物が飲めるような施設にするべきと思っているので、実証実験の段階から簡単に準備出来る飲み物を提供してはどうかと提案した。日曜日の午前中のみで、月1～2回程度の開催からスタートすれば、お世話の負担も少なく済むのではないだろうか。簡単な飲み物と言ったが、紙コップにスティックコーヒーという内容ではお金をいただけないので、近隣のセルフのコーヒーメーカーを設置して提供している店舗では、1杯150円程度で提供されているようなので、同じような内容であれば、美味しいコーヒーが提供できて、お金もいただけるのではないかと考えている。この方式であれば人が張り付く必要もない。何も無いよりも、人が集まることで賑わいとするならば、この程度の飲料提供はあってもよいのかなと思っている。

(山崎氏) エコステーション これまでは、地元婦人会が自らの活動として、年2回、資源回収を行っていたが、その婦人会が消滅したため、その代わりに実施するもの。資源回収は、地元にはなくてはならない活動である。平日の日中であれば、チリ紙交換車が回っているが、日中は、私自身も勤務のためになかなか出せなくて困っているので、潜在的に、平日の日中に勤務している方などは困っているのではないかと考えている。しかし、ニーズ調査をしていないので、実情は分からない。活動の流れとしては、建物の軒下などの屋根のあるスペースで、1～2時間の間に住民の皆さんから資源ごみを持ち込んでもらう。それを回収業者に引き渡す、という具合である。市の資源回収奨励金の交付を受ければ、わずかでも収入が得られる。例えば、日曜日の午前であれば取組めるのではないだろうか。年に1～2回の実施から始めていけたらと考えている。

- 私の地元の婦人会も存続していないが、地域の地域づくり協議会が引き継ぎ、その1つの部会が中心になって、春と秋の年2回実施している。この取組も、地域の地域づくり協議会で取組まれてはいかがだろうか？
- 私の地元の地域づくり協議会でも資源回収を行っていて、24時間365日持ち込めるようになっているが、毎日の持ち込み量はそんなに多くない。市としては、各地域づくり協議会で資源リサイクルに取組んでほしい、との意向だった。但し、年2回実施のために、一定のスペースを占有するのはいかがなものか。
- ごみの分別ほど煩雑なものはないと日々感じているところ。せっかくなら、地域の地域づくり協議会で取組むと良いのかもしれない。

(安居氏) 城端に古くからあるお菓子の文化を活用した生きがいつくり 福祉に重きを置いた取組と観光客対象の取組の併用型で考えた。城端は、呉西地域では高岡よりも菓子業が多く、一番多い時で15店舗あったが、現在は5店舗までに減少している。菓子業のみならず他の業種も減少しており、このような変化の中で、城端の賑わいつくりについてどこまでの内容を求めるのか、悩ましいところである。まずは、お菓子を通した福祉型の取組として、お菓子作り教室、子ども食堂や地域食堂の実施、認知症カフェの実施を考えた。作ったお菓子は、販売してもよいだろう。今の話を城端の菓子組合メンバーに伝えたところ前向きな反応もあったので、正式に検討してもよいかと思っている。福祉型、あるいは福祉と観光との併用型による、ものづくり、お菓子づくり、食事づくりを通した取組とし、営業許可が取得出来るくらいの本格的な設備を取り入れると、いろいろな面で都合がよいだろうと考えている。

- 資料には「城端まちづくり協議会で実施」と記載してあるが、実施に向けた検討はされているのか？
- 今はたたき台の段階なので、協議会にはまだ話していない状況。地元の意見として、必

要との声があれば、具体的に検討していきたいと思っている。

- 今検討している施設が出来れば取組むことにしても良いのではないかと思うが、空いた庁舎を活用した実証実験の段階では、どのように取組むことになるのか？
- 仮に機械を持ち込んだとして、どんな取組につながられるか？高齢者サロンや子ども食堂などになるか？提供のみになるのか、提供と販売で可能なか、その辺りも今後検討しなければならない。
- 提案にあった認知症カフェは、城端福祉センター美山荘でも取組まれていたことか？
- 認知症カフェは、「ともいきカフェ」の名称で、城端では、美山荘ではなく、山瀬氏のなやカフェで開催されていた。
- 今検討している施設には社会福祉協議会城端支所が入ることも検討されているので、実現すれば、認知症カフェも実施しやすいかもしれない。実証実験の段階ではどの程度のことが出るのだろうか？
- 実証実験となると、設備がないから難しいだろう。
- お茶会のようなイベントでなら、実施可能かもしれない。
- 出来る範囲にはなると思うが、必要な手続き的なことは当方で支援するので、出来るところからやっていただきたい。
- 民生委員をしていた時に、城端庁舎3階大ホールで温かいうどんを提供するという活動をしたことがある。その時と同じような取組が出来ればよいと考えている。

◆複合交流施設における「具体的な市民参加の取組」提案について

(○…提案者発言、●…メンバー発言、→…事務局発言)

(長谷川氏) ①エコステーション開設、②体験と学習・フリーマーケット 地域づくり協議会で年2回程度実施する資源回収とは別に、検討している施設内で出る資源ごみを分別・処理するというシステムを構築してはどうか？そこへたまたま、住民の方などが少量の資源ごみ等を持ち込むのはやぶさかではないかと思う。毎日の積み重ねが出来ればよいと思う。それに併せて、リサイクル教室やエコ教室も開催しながら、ごみ分別や資源の循環を啓発すると良いと思う。SDGsの観点からも資源の循環は大事なこと。

→割と気軽に取組めるテーマでもあるので、ぜひ実証実験でも取組んでいただきたい。

(山崎氏) エコマルシェ 図書館を核とした複合交流施設が、入り易く、魅力ある楽しい場所となるような仕掛けとして、簡単な直売所のイメージで提案した。福祉作業所で作られた品物を販売したり、障がいのある方に商品陳列、販売などのお手伝いもしてもらったりして、それが社会参加につながると良いと思う。また、観光協会にも入居していただき、まち中のガイド役として観光案内や物産販売などをしていただく、というもの。

→実証実験でも取組めそうだが、いかがか？

○出来そうだろうか？いや、出来ないと思う。

→どんな場所だったら出来るのか？

○場所ではなくて、売る物である。

→売る物は、場所とは関係なく調達など出来るかと思うが？

○いや、実証実験では難しくないだろうか？

→難しいとはどういうことか？エコマルシェがどんなものかよく分からずに聞いているのだが。

○メンバーの皆さんはどのように思われるか？

●そもそも、どんな物を売ろうと思っているのか？

●軽トラックでの販売などは可能だと思う。

○軽トラックでの野菜の販売も1つ。それは、今検討している施設のイメージ図にも描いてある。

●野菜の販売は、品切れにならないように品物を調達することが、自分が思っている以上に難しいということに、先日気が付いた。呼びかけた以上は、満足してもらうために、品物を切らさないようにしなければならない。せっかく来ていただいたのに品切れでは、お客様をがっかりさせてしまう。余程、力を入れて取り組まなければならない分野だろう。

○今のご意見のようなこともあるので、実証実験では出来ないと思った。出来ないことではないかもしれないが、気軽には出来ないと思っている。

●広報について、例えば、実証実験を実施するにあたり、広く住民の皆さんに告知するには、どうしたらよいだろうか？また、告知は誰がするのか？一度告知した後はどうするのか？

→この話は、実証実験に限らず、新たな複合施設を整備した後でも同じことが言える。

●新たな施設になれば、その辺りの仕組みはもっと明確になってくるだろうが、実証実験の段階で、効果的な告知方法を検討出来ると良いのだが。

→それは、効果的な告知方法を実証実験する、ということになるだろうか。

●住民の皆さんに十分な告知もせずに「やった、やった」と言っている、十分な効果とも言えないので、難しいと感じているところ。

(清部氏) じょうはな情報ハブのや 城端に特化した情報発信をしたいと思い、提案した。実証実験も想定している。まずは、ダンボールを利用したカタログスタンドを作製して城端市民センターに寄せられているたくさんのチラシを整理するところから始めたいと思う。特に、目立たせたい情報はボードに掲示してインパクトのある見せ方をしたい。イベントガイドや交流センターの活動のPRなどのほか、可能であれば、店舗の宣伝なども掲示して、城端の情報が一堂に会するように出来れば良いと考えている。掲示された情報を写真に写して、インターネットに掲載することも考えている。防犯を兼ねてカメラでライブ配信することも考えている。ここに来れば、城端の情報が分かるようなイメージである。

●いわゆる、伝言板のイメージだろうか。

○情報が集約出来るような仕組みを作りたいと思っている。各種団体の情報も掲示されることを活かして、同種であれ異種であれ、団体相互の連携につながっていけばよいとも思っている。

●ここに来ないと情報が分からない、というのは将来的な理想の話であって、それだけではダメなのではないか？

○仰るとおりで、メンバーの皆さんのアイデアもいただきながら、取組んでいきたい。

●ここに来ないと情報が得られない、というのは城端の皆さんに対して平等ではないのでは？

○インターネットだけでは片手落ちで、リアルというか、具体的な情報が欲しい場合は、ここに来ないと分からない。皆さんに公平に情報を行き渡らせることは、非常に難しいことだと思っている。

(長谷川氏) 届けよう・見直そう、外国籍の隣人も暮らしやすい地域づくり 城端にも外国籍の方がたくさん住んでいらっしゃるの、その方たちが住んでいるところの情報を正しく理解出来るようになってもらうためのサークル活動の提案である。実証実験の段階から取り組まなくても、新しい施設が整備されてからの取組で十分だと思っている。例えば、地域づくり協議会の広報誌が配布されても、それはどこまで理解されているのか。また、伝えられている情報が、外国籍の方にも理解しやすいような平易な日本語で表現されているのか、あるいは、漢字にふりがなが振ってあるのか。読み方だけでも教えてあげればよいのか、など。そんな方たちとつながるための教室、あるいは、サークルを開催したい。福光では「にほんご広場なんと」という名称で、月1回の頻度で開催されている。城端でも、年3~4回程度でも良いので開催出来ないだろうか。「にほんご広場なんと」に参加している日本人スタッフが4人程度いらっしゃるの、そのような方々や、市友好交流協会も巻き込んで取組んでいけたら、と考えている。南砺市に住んでいる「誰もが」住みやすいと思えるような取組にしたい。特に外国語を話す必要はなく、外国籍の方が平易な日本語を話せるようになる交流の場が必要だと思っている。「あったらいいな」ではない。ちなみに、持ち寄りパーティーというイベントがあり、ミカン1個からの持ち寄りも可能とされている。

●既に活動されている「にほんご広場なんと」の参加者はどのくらいなのか、開催頻度はどのくらいなのか、ご存じの範囲で聞かせてほしい。

○月1回の開催。ベトナム、カンボジアの方が多い。それなりに日本語は上手に話されるが、日本語を使う場がない、とのことである。日本人スタッフの方が、平易な日本語で伝えることの勉強になっているほどである。以前、地元の地域づくり協議会の部会で「にほんご広場なんと」の活動について話を伺った。その中で、例えば、避難所で、外国人の方に「水を運んで」というような平易な日本語であれば伝わるし、若いから非常に強力な人材になる、との話であった。正にそのとおりで、その地域に住む日本人、外国人がお互いに顔見知りになることが非常に重要だと思っている。

→既に福光で活動されている「にほんご広場なんと」の城端支所的な取組になるだろうか。福光からのスタッフ派遣の可能性の確認は必要だが、会議室の利用が可能であれば実証実験のうちから始めていただければ良いのではないだろうか。

○ちなみに、去年実施された防災訓練の折に、「にほんご広場なんと」に参加されている皆さんも訓練に参加されていた。

(川田氏) 地域に伝わる料理を学び伝える週末カフェ 「自分出来る事」の中で、新し

い施設が整備されたら取組みたいと思い、提案した。もし、新しい施設の調理室スペースが、営業許可がもらえるほどの設えになるのであれば、この辺りでよく食べられているゆべしやかぶら寿しなどの伝統料理をみんなで作って食べるような週末カフェのイメージで取組めるのではないかと考えた。現在、メンバーの清部氏が行っている「お寺 de フリマ」のイベントの折に、城端別院の釜を借りておかゆを炊き、それを提供しているグループに私も所属しているが、おかゆを炊くだけでなく、そのメンバーで味噌づくりも行っているの、味噌玉づくりなど、子どもも交えながら出来るのではと思っている。ちなみに、メンバー全員が食品衛生責任者の資格を持っている。

→ありがとうございました。まだ、提案の宿題を提出されていない方については、これで提出を締め切ったわけではないので、提出をお願いしたい。

◆実証実験に向けた意見交換 (●…メンバー発言、→…事務局発言)

→提案内容について説明していただいたが、実際にどのように取組んでいくか、という部分の検討を詰めなければならない。先ほどから提案していただいた中では、川田氏のブックマンション、ボランティアのたまり場、山崎氏の週末カフェ、清部氏の情報発信、の各取組がすぐに取組んでいけるのではないかと考えている。この後、活動スペースのレイアウトなどについても、皆さんで意見交換しながら、具体的に内容を詰めていただければと思っている。

それから、活動場所について、元々、提言には、建物に入った時に、行政、社会福祉協議会、商工会のそれぞれの窓口の職員の方の顔が見えて、気軽に相談できるように、と挙げられていることもあり、現在の城端庁舎1階にある市民センターの向かい側の空きスペースで実証実験の取組が出来ないかと、その場所の整理整頓を行ったが、市民センターから、様々なお客様が手続きに来られる中で、家庭の相談事なので周りの人に話を聞かれない、あるいは、亡くなった家族の手続きで来庁しているので静かにしてほしい、などというご意見も想定されるので、その点について配慮してほしいとの申し入れがあった。もし、どうしてもその場所で活動したいのであれば、きちんと仕切りを入れた上で活動していただきたい、とのことだった。その点については、今後どのように対応していくか考えていけば良いと思っているが、幸い、2階も空いているので、一先ず、2階エレベーターホール部分で活動していただくのが良いのではないかと考えている。1階にも声が届くし、エレベーター利用で動線が短くて、お客様に来てもらいやすいのではないかと考えている。まずは、そこで、すぐに取組んでいけるような提案について実証実験を進めていただければ、と思う。今後、実験していく活動が増えれば、2階の東側に向かって、活動スペースを広げたいと考えている。今はまだ片付いていないが、時期を見て、事務局側で整理整頓していきたい。

ということで、2階エレベーターホール部分を活動場所として整備するための机や棚などの遊休備品のうち必要なものをイメージしていただいた上で、再度、具体的な内容の検討を行って、今回の会議を終えたいと思う。次回会議は7月27日なので、その時には軍手持参で参加願いたい。

●確認だが、空いた庁舎を活用した実証実験の位置づけについて、空き家になった庁舎でいくら活動をしたところで人は集まらないのではないかと？新しい施設で行うと、真新しいイメージで人は集まりやすいと思うのだが。

●検討している施設の機能の大部分は貸室機能であって、実証実験しようとしている取組はその一部にしか過ぎないのに、実証実験が終わらないと建物整備の話は出来ないのか？

→今後、地域で複合交流施設整備の説明会をして、地域の合意を取らなければならない。地域での説明の中で、ただ建物を新設と言っても、公共施設再編で既存施設を減らしていかなければならない中であって、新しい建物に余分なスペースを設けることは出来ない。この現状を踏まえた上で、提言にある「賑わいづくり」をどのように進めていくかということ、地域の皆さんにきちんと説明して、地域の皆さんに参加してもらえるような内容にしないと、提言を実現することは出来ないと考えている。

●城端勤労青少年ホーム機能や城端老人福祉センター美山荘機能の部分については、現在利用されているから、新しい建物が出来れば、自ずとそれらの利用者の皆さんが移動してくるのではないのか？

→検討している施設に盛り込もうとしている既存施設の、城端図書館、城端勤労青少年ホーム、城端老人福祉センター美山荘は現在賑わっているだろうか？

●この会議の元を正せば、庁舎統合により、庁舎機能を失った地域は賑わいが無くなって、活気も失ってしまう、との市議会からの提案・要望によるもの。私は、元々庁舎には賑わいなどはないと思っている。あくまでも、用事があるから行く所である。我々が検討しているのは複合交流施設新設である。庁舎とは別の意味で、図書館やカフェなどが入

って、いろんな人が集うことが賑わいにつながることをイメージしている。そこで、賑わい機能をメインに検討を進められることで、肝心の建物の話が先送りになってしまいうことは、ナンセンスである。例えば、喫茶店が入るかどうか、ロビーの規模はどのくらいか、商工会はどのような部屋を希望しているのか、など多少決めなければならないことはある。図書館機能の広さを最終的にはどの程度にするのか、城端老人福祉センター美山荘を利用している人は、それぞれどのくらいの広さであれば安心してもらえるのか、城端勤労青少年ホームのサークルはどんな設備があれば活動しやすいか、などという点は今後確認しなければならないだろう。建物全体として、庁舎機能があった時よりも少し賑わっている程度で良いと思う。これまでも、賑わい機能についていろいろと意見が出されていたが、そこまで議論しているといつまで経っても前に進まない。賑わいに直結するような機能はいろいろと入ってほしいとは思いますが、言い出すとキリがない。実証実験として提案されている取組なら盛り込むことは出来そうだが。

●もしかすると、今、やろうとしている実証実験というのは、この既存施設でも、提案された取組が十分に出来るといういうことを実証実験する、ということか？

→そうではなくて、3月19日の富山市への視察に参加された方は十分理解されていると思うが、立派な施設であっても、ほとんど利用されていないような実態を見て来た。新たに施設さえ作れば良い、というものではないということ。

●それは、施設は不要、ということか？

→その施設でどんな取組が出来るのか、実証実験でまずは試してみて、運営の過程で出来ること出来ないことの確認や、やろうと思っていたが止めた方が良いという判断などを積み上げた上で、この方法なら地域の皆さんに参加してもらえらるだろうという確認を、この実証実験でしていただきたい。

●そのための実証実験なら止めた方が良い。

●実際に、建物が整備されてから、提案した取組を始めようと思っても、スムーズに始めることは難しいし、リスクが高いから、私は、実証実験はやるべきだと思う。

●そうではなくて、どんな建物を建てるのかを決めた上で、建物の本設計に入って、庁舎建物解体までの間には少なくとも半年から1年ほどの時間があるわけだから、その間に、実証実験を行えば良いのである。実証実験をしてから、どんな建物を建てるのかを決める、という手順では、話が本末転倒になるから、こういう建物を作るんだと決めてから、空いた時間を利用して、新しい施設のオープンを周知するためのイベントのようなイメージで実施するのであれば差し支えない、と言っているのだ。実証実験をしてからでないで建物の検討は出来ない、などと言われると、その実験で、仮に人が来なかった場合には複合交流施設整備の話はなしにする、という論理にするとしか思えない。

→検討している複合交流施設で、具体的にどうやって賑わいをつくるのかははっきりしていない状態で、住民の皆さんとの意見交換会で、果たして合意をいただくことが出来るのだろうか？

●合意とは何か？誰から合意をもらうのか？

→地域住民の方から合意をいただく。

●早く青写真を描いて、我々に提示して、その上で、各部屋の面積やどんな機能を盛り込むべきかを検討し、それに住民の意見を加えて加除修正すれば良いのである。実証実験は、検討の空いた時間に、空いたスペースを有効活用して行えば良いのである。

●城端には、残念ながら、地域を盛り上げようというプレイヤーがいない。井波には、数名の若者が地域を盛り上げようとして頑張っている。城端でも、もっともっとプレイヤーを増やさなければならない。この実証実験をとおして、プレイヤーとなる人材を増やしたいと思っている。

●それはいつまでかかるのか？庁舎建物で賑わいをつくらなくても、商店会にもっと頑張ってもらって賑わいをつくってもらわなければならないのでは。

●商店会は頑張っている。商店会とは別で、まちや地域のことはそこに住んでいる人が考えるべきだと思う。

●商工会は入るし、願わくは、観光協会にも入ってもらいたいし、美山荘の機能が入るからそこに来ていた高齢者は呼び込めるし、正に複合施設だから、相乗効果が相まって、今まではバラバラにあった施設機能が1か所に集約するわけだから、今までとは違う賑わいが生まれると思っている。

●賑わいというのはランダムに人が来るというイメージだが、確実に流行っている店には固定客がいる。定期的に利用される固定客を作っておけば、その固定客に他のお客が付いてきて賑わいになるから、固定客を持っている店は強い。施設が整備されたら、どんな年代になるかは分からないが、例えば、週1回は訪れたいような固定客を作る仕掛けなど、訪れたいような機能が必要だと思う。その固定客というのは、地域に繋がっている人たちであって、この施設自体も地域に繋がる必要がある。

- 新しい複合交流施設の整備に向けて、あったら良い機能、やってみたい取組など、たくさんアイデアが出されたと思うが、実際に地域住民が求めているものはどんなものなのか、ニーズ調査のようなことをして厳選していくべきではないだろうか？
- 実際のところ、まちづくり検討会議からの提言内容や提言実現に向けた進め方については、資料の班回覧はなされているが、その後の話合いとして、私の地元の地域づくり協議会ではそのような話合いは一切なされていない。この会議の存在も認知されていない有様である。各地域づくり協議会に投げかけて、城端地域に必要な機能などについて話し合ってもらえる機会を設けたら良いのではないだろうか。
- 先日、建築士の藤井さんに1回目の図面を描いてもらって、いろいろと意見を述べた。それを踏まえて、もう一度、藤井さんなりのアイデアで描いてもらって、それをもって、各地域づくり協議会で検討状況を説明すれば、意見が出ると思う。その上で、城端地域全体の意見交換会を行うことも一考だろう。実証実験を行うよりも、地域の合意を図っていくための下地づくりの時期に来ている。実証実験というのは、施設がオープンした折に、取組が順調に運営出来るようにするために、例えば3回程度やってみれば良い程度のものである。実証実験で、ある程度の人の入りが見込めなければ、施設整備の話はない、というのはもってのほか。そんなことに時間ばかり割かれても困る。
- 例えば、図書館機能や美山荘機能など、機能別に分割して考えていき、またその考えを合わせて、住民説明会で説明するのはどうだろうか？城端図書館や城端老人福祉センター美山荘の利用者の声も盛り込んでいけたら良いのだが。
- 既に、利用者ニーズ調査は実施済みである。
- 実際に利用している方に向けた調査を行ったのであって、住民意識調査のようなものではないが。
- 仮に、調査用紙を1世帯に1枚配布したところで、その世帯の誰か1人が書くことになるので、各世代の意見を網羅することは難しい。地域づくり協議会で行っているような中学生以上を対象とした住民意識調査を行えば可能だが、分析するまでに半年から1年ほどの時間がかかってしまい、ますます住民説明会の実施が遅れてしまう。
- 対象世代の範囲を絞ってもよいのではないか。
- 口で言うのは簡単だが、調査をやるのは煩雑である。
- この会議は、何の決定権もない任意の会議なので、各地域づくり協議会に話を下ろして、それぞれで話し合ってもらい、そこでの意見を吸い上げて、城端地域全体の意見として取りまとめるのが良いのではないか。そろそろ、そのようにしていかなければならないのではないか？
- 3月の時点では、4、5月で、この組織としての意見を取りまとめて、藤井建築士には青写真を描いてもらった上で、6月に各地区を回って説明しようとしてスケジュールを組んでいたが、昨今の社会情勢により、会議が中断し、それっきりになってしまっている。
- 提言してからの2年間、ダラダラとただいたずらに時間が過ぎてしまい、地域住民に十分な説明が出来ないまま、7月1日の庁舎統合の日を迎えてしまった。市民センターだけとなった城端庁舎の今後について、城端地域出身の4名の市議会議員に聞いても明確な答えが聞かれない。市は、庁舎が統合する7月までに答えを出す、と言っていたのだから、市議会がもっと発破をかけるべきではなかったのか。先の6月議会でも、この件については触れられなかった。どんなつもりで、秋の選挙に出るのだろうか？
- 元々は、庁舎統合があつての賑わいの話であつたはずなのに、賑わいの話が横に置かれてしまっているように感じる。
- 当の提案・要望した市議会は、全く無関心。そして、井波や福野は「賑わい」に振り回されてしまっている。私は、城端には、賑わいがそんなになくとも良いと思っている。前回の会議では、藤井建築士は図面を手直しして、再度提案するようなことを話しておられたが、どうなったのか？図面が、その後どのように修正されたのか、楽しみにしているのだが。
- 実証実験とは、方向が決まってから、より具現化に向けて行うものであって、何も決まっていなくても実証実験を行うことは決してない。現時点で実証実験しても、何の意味もない。こういう施設を整備するから、動線はどんな具合になって、などと試験的にやってみることが実証実験である。実証実験の話は、後でも良い。実証実験で、議論を先延ばしにするのは賛成できない。青写真を早く描いてもらって、住民に提示出来るようにすべき。例えば、面積の広い狭い、賑わい創出の機能の知恵をもっと出せ、などの意見はあるかもしれないが、どんどん言ってもらえば良い。各地区での説明と並行して、地域全体の住民説明会を開催し、それらの意見を踏まえて、再度我々が集まって加除修正し、いよいよ図面修正、といった手順で進めていくべきではないのか。早く藤井建築士に第2案を提示してもらって、それを持ち帰って、この組織のメンバーみんながいろんな所で意見を聞いてくる、そのような手順を踏めば良いと思うがどうか？実証実験

は、実証ではなく、単なるお試しである。

- 私は、そのような位置付けでは考えていない。新しい施設を整備するにしても、そこに集う人たちのネットワークを今のうちから築いていかなければならないと考えている。今までの繋がりではなく、新しく作っていく繋がり。例えば、この施設を、ボランティアの人たちが集う場所とするために今から布石を打っていくようなイメージ。その施設で活動している人がその施設の魅力であるから、実証実験をとおして、施設の魅力となる人づくりをしていきたい。また、仮称ブックマンションの場所では、本が好きで、それを情報として活用したり、その情報を繋げたりする人が集まってくれると思っている。それは新しい建物になっても、当然必要な機能である。しかし、いきなりやれ、と言われても、すぐに培われるものではなく、実証実験という名称が相応しいかどうかは分からないが、新築にしろ、改修にしろ、このようなことを想定しながら進めたいと思っている。
- 実証実験をすることが、賑わうかどうかの確認にはならない、と言っている。
- 私は、そこは狙っていない。
- 新しい建物が整備されることで、既存のサークルや教室とは別の、新しいものが出来てほしいと思っている。従来の公民館活動では出来なかった、新しい内容のサークルなども出来てほしい。そして、そんなサークルなどの立ち上げをサポートするような人材を育成したいとも考えている。非常に大事な事と思う。城端勤労青少年ホームは現在も頑張っているが、新しい施設に盛り込まれることに併せて体制を強化し、新しいサークルなどもどんどん立ち上がるような、そんな拠点であってほしいと思う。
- 仮に、意見交換会を城端庁舎3階で行った場合、各家の家長しか参加されない。それで物事を決めていくということも非常に心配である。
- おっしゃることはごもっともだが、代替りの方法はあるのか？
- 広く各世代から声を聞かなければならない。
- 例えば、地域づくり協議会は、以前の自治振興会とは体制が一変し、女性や若者もたくさん加わっていて、これまで会議に出てこなかったような顔ぶれも見受けられるようになってきている。年配の方だけの意見だけで物事が決まるような心配は無用だと思う。それよりも、意見交換会では大勢の参加が見込めるだろうか？
- 藤井建築士からの図面は、次回会議で提示してもらえるのか？
→藤井建築士に確認してみる。但し、藤井建築士にはあくまでもボランティアで描いていただいていることはご理解いただきたい。
- 各所で、城端庁舎はどうなるのか？という声をよく耳にするし、また、その声が大きくなってきている。
- 青写真が提示されれば、早急に各地域づくり協議会へ説明に回っていく、という流れで良いか？
- 城端地域に活気と賑わいをつくっていくためにも、こちらからの情報発信は必要。
- 地域づくり協議会で説明した時には質問もあるだろうから、誰か答えなければならないが、この会議では会長職が決まっていないし、事務局で答えてもらうのもおかしいし、どうしたら良いだろうか。
→説明会での質疑応答の対応は、現在検討されている皆さんでお願いしたい。
- この会議メンバーが責任を持って答えることに賛成。
- 根回しではないが、各地域づくり協議会の会長さん方にだけでも、事前に説明しておいてはどうか。地域審議会がなくなってしまったのだから、なおさら必要である。
- もう一度言うておくが、実証実験ありきではない、ということ。どんな取組をするかも決まっていないのに、実証実験なんてありえない。
- 次回会議で青写真が出来上がってくれば、その青写真に、これまで検討してきた機能や取組などを入れ込んだり、青写真を基に2度3度と検討を重ねられたりという進め方になる、ということか？
- そのとおり。まちづくり検討会議から数えて、2年も経過しているが、一体何をしていたものか。
→まちづくり検討会議からの提言をベースに、その実現に向けて、昨年からの現在の組織で検討していただいている。提言に挙げられている、様々な賑わいの具現化に向けた議論をしていただいているところ。
- 賑わいにこだわらなくても良いと言っている。既存施設の利用者が一か所に集まることで賑わいとなるのだから、少なくとも、今までの庁舎とは違う、新しい賑わいが出ることは100%確定している。これ以上、何を検討しろと言うのか。特別なイベントがあるわけでもない。元々、人が押し寄せるような事もないのだから、これで十分である。
- 庁舎が統合され、城端庁舎建物は完全に閉庁になるのか？
→夜間や休日は、職員が来れば、利用出来ることになっている。

●新しい施設でどんなことをするか検討は、次回、図面を見ながら検討すれば良いではないか。
→図面については、藤井建築士に再度確認する。それと、地域づくり協議会への説明を行うことと、実証実験を並行しながらやっていくことについては、提言の実現に向けた進め方として、皆さんと話してきたことなので、確認しながら進めていきたい。

◆次回会議

日時…令和2年7月27日（月）

場所…城端庁舎2階 202会議室

内容…活動スペースの設営、空いた庁舎を活用した実証実験の実施に向けた打合せ

宿題…具体的な市民参加の取組検討（提案書、または、空いた庁舎を活用した、事業化のための実証実験提案書）について、未提出の方は、次回会議に提出。

提案者氏名	長谷川 氏	藤本 氏	山崎 氏	坂本 氏	清部 氏	長谷川 氏	川田 氏
ア. 関連する「提言の方向性」	①世代を超えて交流し助け合える、誰もが集える居場所づくり	①世代を超えて交流し助け合える、誰もが集える居場所づくり	①世代を超えて交流し助け合える、誰もが集える居場所づくり	①世代を超えて交流し助け合える、誰もが集える居場所づくり	②地域の情報を共有し語り合える仕組みづくり	②地域の情報を共有し語り合える仕組みづくり	③やりたいことが実践できて活気あふれるにぎわいづくり
イ. 取組のタイトル、または、テーマ	この施設からリサイクルを発信！ ①エコステーション開設 ②体験と学習・フリーマーケット	なんとなくつながる場所	新複合施設が、入り易く、魅力ある楽しい所であることが大前提である。	まちなかコミュニティガーデン 一緑が息づく複合交流施設	じょうはな情報ハブのや	届けよう・見直そう、外国籍の隣人も暮らしやすい地域づくり	地域に伝わる料理を学び伝える週末カフェ
ウ. 取組の内容(実施場所、期間(曜日・時間帯)、人材、経費見込、など具体的に)	【場所】 ①軒先リサイクルステーション ②研修室・軒先広場など 【期間、時間帯】 ①通年 ②年1～2回 ※時間帯については、開所時間等のみを検討 【人材】 ボランティア協力者を募る 【経費見込み】 案内チラシ作成料が発生する。施設日より掲載あり。	①偏った世代のものではなく、全ての世代が利用しやすい場所、フラットと立ち寄れるような場所(名前は知らなくても、顔見知りが増えるような場) ↓ (図書館+ブックマンション+古本屋+カフェ+インターネット利用)=カフェ的なものであれば、全世代が気軽に利用できると思う。 ※ブックマンション、古本については、考え方で面白いものが出来ると思っている。 ②子育て世代のリサイクル、交換の場(制服、体操服、靴、自転車、おもちゃ等)	仕掛けとしては、図書館を核として広げていく必要あり！！ ◎実証実験を行わないが、将来やるべき事 1. エコマルシェ ■障がいのある人も出品したり、お手伝いしてもら(エルハート城端など) 2. 観光協会に入所してもらい、観光案内や物産品の販売	緑(草花や樹木)でつむぐ憩いの空間づくり ・市民に親しみのある植物や、地産産の野菜や地域に自生する植物(葉草、食材、山野草他)を組み合わせたコミュニティガーデンと、これと一体化した施設内ホールや緑のカフェライブラリーや工房(ワークショップスペース)	【内容】 A4縦書き程度の紙に個人or団体の伝えたい生情報(イベント予定等)を書き、ボードに張り出す。 ・基本は紙媒体持ち込み。 ・PDFやJPGを現地でプリントアウト(実費必要) ・用意したフォーマット(ワード形式?)にその場で入力→出力も可 【実施場所】 行政センター1階エントランス(トイレ前)もしくは入ってすぐ左 【期間(曜日・時間帯)】 平日9時～17時。 期間は2ヶ月ほど 【人材】 無人でも可能 【経費見込み他】 掲示ボード(畳3枚ほど) 持ち込み機材(プリンターUSBメモリー等直接読み込み可、Mac mini、モニター、キーボード、マウス)電源、可能であればWi-Fi環境	【場所】 研修室(交流室)、飲食可能な場(ミニキッチン付き) 【期間、時間帯】 年4～5回 ○時間帯については、開所時間等のみを検討。 ○にほんご広場なんと(福光交流センター1回/月)と調整 【人材】 ○城端在住の「にほんご広場なんと」協カスタッフが3～4人はいる。 また、参加している外国籍の方もあって、その人たちが巻き込んで企画。 ○市の友好交流協会の皆さんにも声を掛けてみる。 【経費見込み】 案内チラシ作成料が発生する。施設日より掲載あり。	【内容】 地産の野菜や、旬、くらしのことを盛り込んだワークショップをして、学び、伝え、美味しくいただく。 例えば、味噌づくり、味噌玉づくり、ゆべしづくり、かぶらずしづくり、など 【実施場所】 調理室(営業可能なレベル)と飲食出来るカフェスペース 【期間】週末 【人材】 桜花らんらんチーム(城端別院で、善徳おかいさんをやっているチーム) ※食品衛生管理者は、川田がもっています。 【経費】会費制
エ. この取組の意図・目的や、この取組によって解決したい、現状の問題点・地域課題・期待する効果	【意図】 施設運営上発生する物品・関係物のリサイクルを基に収集活動広める。 ※社協で実施中…エコキャップ・使用済み切手・銀箔付紙パック ※施設から出るもの…アルミ缶・ペットボトル・古本・新聞紙等 ▶これらを、外部からの持ち込みも受け付ける。 【現状の問題】 ○高齢者世帯が増える反面、家庭ごみの分別やリサイクルが複雑化している。 分からない！面倒くさい！出すのが苦痛・置けない！などの理由から、分別せず可燃ごみとして処理してしまうことが多くなると予測。 ○エコストアが少ない。 ○自治会でのリサイクル当番も、高齢化により担当できる人が減ってきている。 【課題】 ①ペットボトルや古本などを持つことがきっかけで、施設に足が向く。 ②小中学生や若い世代と研修やフリマ等を行うことで、つながりが生まれる。	①何かはっきりした目的があり、人を集める事も必要だけど、何もなくてもなんとなく足を運ぶような場所になってほしい。(公園や図書館に付加価値をつけたイメージ) ②子育て中、子供の成長に合わせ、必要になるもの unnecessaryになるものが早いサイクルで出てくるので、それをリサイクルする事で家計の助けにもなるし、交流の場にもなると思う。 ※ツイッターで質問してみたところ、●むぎや体験(踊り、衣装)出来る所、●アニメ制作体験コーナー、●キッチンカーを置けるように、等	1. 立地条件の良い場所であるため、誰もが入り易い場所にするために「町の駅」としてマルシェは効果的である。 2. まちの中のガイド役として、様々なニーズに対応するためにも重要である。	城端町は四季折々に祭事や催しが繰り広げられ、そこには桜並木や、多く点在する神社仏閣の緑地空間だけでなく、曳山祭りの山宿で披露される見立ての植物等、まちの人々の生活にはハレとケにおいて緑を愛する地域ならではの楽しみがある。(親しみと品格、屋外と屋内の演出やまちなみと私的空間の調和) また、まちには日頃から緑で私的空間をしつらえ楽しむ人が多く、また植物を通して訪れる人々をもてなす感覚が強く養われているように思われる。 このような現状から、複合交流施設は単なる一施設として整備するのではなく、まちに点在する守り・活かし・育てていきたい緑の資源と連続する施設機能やデザイン、運営に反映させることで、より人々に愛される地域ならではの空間づくりを目指す。 ●自然から学び・触れ合う人々との交流 ・四季折々に変化する植物の成長を通して、訪れる人々の五感をくすぐり、生命の魅力を発見、味わいながら感性を磨く。 ・市民参加型のガーデンで繰り広げられる楽しみ、感動、疑問、知識を通して、子供から高齢者まで自由に触れ合いながら日常生活の活力を養う。 ●市民と共に呼吸するライブラリー ・定期的に植物や生物(鳥・昆虫等)の自然や、それにまつわる生活・観光資源との関わりやその他のテーマを図書館や他のイベントを共有、展開することで、それぞれの有効活用、新たな魅力発見等、さまざまな角度からの相乗効果を図る。 (市民提案型ライブラリー/緑のまちと共に息づくライブラリー) ●緑のシンボリック空間づくりと、まちなかの魅力ある緑のネットワーク化 ・周辺の緑の活用やコミュニティガーデンとの一体化した複合交流施設の立地により、まちなかに点在する公的な緑地空間のネットワーク化を図ると共に、人々の緑を生かした景観作りに対する意識を高め、施設単体だけでなくまち全体を考慮したヒューマンスケールの空間形成(緑で人をつなぐ)を目指す。 ＜まちなかの主な緑のネットワーク例＞ 城端小学校・中学校をつなぐ桜並木 ⇄ [複合交流施設] ⇄ じょうはな座前駐車場を緑取る植栽帯と桜のゲート ⇄ 蔵回廊 ⇄ 城端別院 ⇄ 西新田神社 ⇄ 山田川沿岸 ⇄ 城端駅 ⇄ 蔵回廊 ⇄ 城端別院 ⇄ 西下稲荷神社 ⇄ 304号 ⇄ 城端駅 ＜周辺のシンボリック緑地空間＞ 桜が池、縄が池、袴腰山 ●移ろいゆくギャラリー ・複合交流施設は自然現象(光、風、水、雪等)や植物の四季折々のいろやかたち等、刻々と変化する自然の様相を生かしたギャラリー空間にすることで、人々の好奇心をそそると共に、ナチュラルな感性を磨き楽しむ。	『城端の情報があつまる場所』 城端Fan倶楽部の上位互換 (https://www.facebook.com/城端Fan倶楽部-188164267925751/) 貼られた情報を写真に撮してネットにアップ。 他の個人団体の活動内容を知ること、互いの活動のベクトルを揃えることができる。 まちの駅的な情報が集まれば、住民以外にも利用価値がある。	【意図】 ○身近に暮らす外国籍の人とのつながりの場を作る。 ○国籍・世代や性別、価値観の違いを超えた地域交流を通し、新たな人間関係を育む。 【現状の問題】 ○地域の情報に限らず、災害等の情報が届いているのか？理解できているのか？ 一方的に流しているだけでケアになっていないのでは？との思いがある。 ○同じ地域に住む住民としての理解が薄い。 【期待する効果】 ○お互いが気軽に声を掛けあえる、誰もが安心して暮らせる地域に！ ○交流の輪が広まり、ポットラック(持ち寄り)パーティーなどで楽しめる拠点づくり。	地域に伝わる料理を、学び伝える場をつくることで、老若男女が集い、にぎわいづくりにつなげるとともに、伝統文化を継承していく。

提案者	川田 氏	川田 氏	長谷川氏	山崎 氏	山崎 氏	安居 氏
ア. 関連する「提言の方向性」	①世代を超えて交流し助け合える、誰もが集える居場所づくり	①世代を超えて交流し助け合える、誰もが集える居場所づくり	①世代を超えて交流し助け合える、誰もが集える居場所づくり	①世代を超えて交流し助け合える、誰もが集える居場所づくり	①世代を超えて交流し助け合える、誰もが集える居場所づくり	①世代を超えて交流し助け合える、誰もが集える居場所づくり
イ. 取組のタイトル、または、テーマ	ブックマンション	ボランティアのたまりば	町ピアノの設置	週末カフェ+集える場所づくり	エコステーション	城端に古くからあるお菓子の文化を活用した生きがいづくり
ウ. 取組の内容（実施場所、期間（曜日・時間帯）、人材、経費見込、など具体的に）	<p>【内容】 賛同して下さる市民の読み終えた本を、その人の本棚に置いて、来館する人に自由に読んでもらったり、貸出したり、販売したりする。 できれば、本にまつわるイベントを開催したい。 読み聞かせ・読書会・ブックマルシェ・移動図書館・移動本屋さん、など</p> <p>【実施場所】城端行政センターの1階</p> <p>【期間】毎日、イベントは週末</p> <p>【人材】 本好きで、譲りたい本をお持ちの方。（古物商の免許は、川田が持っています。）</p> <p>【経費】 本棚が必要。 庁舎で廃棄予定の棚を頂戴したいです。できれば、ソファや椅子も頂戴したいです。</p> <p>【運営方法】 当面、貸出するだけにして、貸出ノートで管理する。 販売する場合は、日を決めて、マルシェを開く。</p>	<p>【内容】 主にベルマークや使用済み切手、書き損じハガキなどを収集整理するボランティアの拠点をつくる。城端地域住民に、収集についての情報が記載されている収集袋を配布することで、広く周知し、市民に収集を募り、持ち寄っていただく。それを分類して仕分けし、学校等へ納める、という活動を基本に実施し、ボランティア活動への関心を広める。</p> <p>【実施場所】 城端行政センターの1階（今の、模型のあるあたり）</p> <p>【期間】 市民センターが開いている日</p> <p>【人材】 とりあえず、会議メンバーの長谷川邦子氏と私。ボランティア連絡協議会に声かけする。</p> <p>【経費】 はさみやのり、紙などが必要になるが、この活動が決定すれば、市のボランティア助成を受けて、賄える程度。 椅子や机、ロッカーをください。できれば、ホワイトボードがあったら嬉しい。</p>	<p>【内容】 庁舎3階のグランドピアノを1階に置く。いずれは城端勤労青少年ホームのアップライトピアノを新施設に置けたら嬉しい。（但し、図書館のことを考えると……。）</p>	<p>【内容】 低価格の飲み物と自由に入ることのできるスペースを作る。</p> <p>【場所】 空いた庁舎</p> <p>【期間】 土曜日か日曜日に曜日を定める。取り敢えず、半日でスタート。</p>	<p>【内容】 町中の方が、住まいの近くで資源回収できる所があれば助かると思う。(有)林商店が引き取りなので、場所提供するだけ。</p> <p>【場所】 神明通り側の城端庁舎西側駐車場の屋根のある場所</p> <p>【時間帯】 年2回程度、日曜日の朝8時から2時間程度</p>	<p>【内容】 地元の菓子職人が講師となって協力し、地元産の野菜、果物、牛乳、肉等を使って、菓子製造・食品加工を行い、子ども食堂や高齢者サロンで提供する。</p>
エ. この取組の意図・目的や、この取組によって解決したい、現状の問題点・地域課題・期待する効果	本を通じて、世代を超えた交流が生れる。共通の視点がある人が集うと何かが生まれる。 子供の居場所になりうる。子育て世代や、高齢者の居場所にもなりうる。	児童・生徒のいない家庭で、廃棄されているベルマーク等を活用できる。誰でも自宅で気軽に参加することができ、地域社会に貢献できるとともに、持ち寄ることで生まれる交流の中で、ボランティア情報の共有ができる。 収集ボランティアは、いつでもだれでも気が向いたら行えるし、目的がはっきりしているので取り組みやすいと思う。また、ボランティア情報の共有場所にもなる。	○空港ピアノ・駅ピアノのような、ふらっとピアノを弾く人、それを耳にする人、の空気に期待。 ○B S等で深夜にやっている駅ピアノ・空港ピアノからのヒントです。発表会や定期的な演奏や教室でなく、通りすがりの人がピアノを見て鍵盤に触れる、懐かしの曲や大好きな曲を弾くだけのことです。 40代50代の方の中には、ピアノを弾けたり思い出を持つ人も多いのではないかと思います。今後、住民にとどまらず、今は身近にピアノがない人、旅行者や外国からの研修生等にも癒しになればと思います。ただ、子供たちのただ鍵盤をたたきだけの玩具になるのでは？の心配もあります。加えて、アップライトピアノがあるなら、そっちの方がスペース的に良いと思います。 追記) ○新しい施設が完成した時に置けるかどうか考えるきっかけになればと思います。 ○その意味で所有者や管理者も今後の検討です。調律の費用も必要となります。（譲り受けるだけとはいかないでしょう）	【目的】子どもから高齢者まで、年齢問わず、自由に立ち寄れて、会話の出来る場を作る。 集った人と話が出来て、時間を潰せる場所、悩みや相談があれば話してもらい、人に聞いてもらう事で、ストレス解消になったり、解決出来たり、人の居場所づくりが必要。	今までは婦人会が実施していた行事で、近所の高齢者や各々の家の資源を回収し、好評だった。 住んでいる地域で回収する事に意義がある。 わずかではあるが、収入源にもなる。	○地元の高齢者の活躍の場として、生きがいや福祉と健康づくりに役立てたい。 ○観光資源の活用のための場づくりとしても役立てたい。 ○これらの取組を、城端まちづくり協議会で行いたい。 ○家賃や食材費 →経営について、専門家による支援が必要